

## 中国社会学学会社会福祉研究専門委員会第 11 回年次大会報告 I

中国社会学学会社会福祉研究専門委員会第 11 回年次大会に参加して

孫 応霞  
大阪府立大学大学院

2019年11月9日から10日の二日間、中国広東省（中山大学）にて、中国社会学学会社会福祉研究専門委員会第11回年次大会が開催された。今回、中国、日本、韓国からの研究者だけでなく、アメリカの研究者も参加し、合計72カ所の大学・機関、141名の方々が参加した。大会のテーマは「福祉システムとよりよい美しい生活」で、6つの分科会において活発な議論が行われた。

報告者は、日本の貧困問題に関心を持ち、とりわけ、生活保護制度における子どもの高校教育保障のあり方に関して研究してきた。今回の大会で、報告者は、「2 児童福祉と障がい者福祉」の分科会に参加し、「生活保護世帯の子どもの学習状況と学習支援事業の評価に関する研究—生活保護ケースワーカーへのアンケート調査から—」と題する報告を行った。今回、各分科会にはコメンテーターが配置されていた。報告者の報告については、コメンテーターから、2つのコメントをいただいた。第一に、学習支援事業は具体的にどのように実施され、内容はどのようなものがあるか。第二に、生活保護ケースワーカーがなぜ生活保護受給のことを直接子どもに言えないのか、それは親を十分説得していないか、それとも他の理由があるか、とのことであった。

分科会終了後、報告者の研究に関心を持つ中国の研究者から声を掛けられた。現在中国における児童福祉の現状や貧困研究に関する多くの情報について助言していただいたうえ、日本で研究したことや、日本の先進的な実践をぜひ教えてほしいと励まされた。また、食事会で、他分野の先生や院生の方々と深い交流・議論ができ、大変勉強になり、有意義な二日間を過ごすことができた。

今回の大会を企画した日本社会福祉学会、中国社会学学会社会福祉研究専門委員会のお陰で、報告者が母国で報告することができたことを心から深く感謝したい。今後、自分の研究により一層取り組んでいくとともに、国際・日中学術交流を深めていきたいと考えている。